



大和石記  
 第二  
 止

2906  
 572

ル 4  
 4873  
 15



防奇

思

2906  
572  
4298

8916  
4873  
15

和列舊跡幽考目錄

第二十卷郡未勘

滋巴 大寫峯  
 御間坂池 口無山  
 樟葉宮 大野  
 上安池 打廻里  
 安太師野 標野  
 多奈久良終野  
 中山 鳥栖山  
 玉井沼 赤層山

大我野

志我高嶺

彼霖橋

阿保山

飛羽山松

あづり池

絶間池

跡見乃岳

防奇

弓削川原

見別河

大和寫

始見崎

歸市

靛池

本執宮

鴛園

多能氏池

宇治間山

獵路池

お沼の池

海峯の山

綿豆山

下橋山

高船川

高船川

小島野の池

うね目乃池

うねのみやふ

井根宮

司穗宮

和別舊跡幽考卷二十卷

和別舊跡幽考卷二十卷

郡末考

滋尾

八雲津抄よまげ尾乃字乃唐橋考の

よまげ尾尾とまげ尾尾所よ大和國

滋尾よ神ゆいりてゆいりてまげ尾尾の

大鳴琴

八雲津抄唐橋考よ倭國

妹あまのり行てか海と大和乃大鳴琴よ嫁むり

大我野

り不草よ大和國

山跡よまげ尾乃大和野乃竹葉折敷いりり

御間坂池

隆月元枕

いせのくひが来ととま物も一太極のそふ三池  
は無山 さうの池 忠房

大和の山人のいそをばあありひとよ  
長志我我高嶺

万葉 八雲の山よ大和國

霧のうらみとくすけとあしとあまのり  
樟葉宮 あまのり

魏字名所よ河内國一統大和國

雲よりれぬとみ乃くまれとあまのり  
大野 内白左大臣

万葉 八雲の山よ大和國

おのねとあまのり大野の三笠村乃神一とよ  
低森橋

丈木 八雲の山よ大和國

春あまの川乃川の絶きいさげたてとよ  
上安池 橋琳堂

万葉 上安池の絶乃これねの行来いさね  
藤塩草より大和國

春雨抄 仙覺抄よ大和國

阿保山の依る本の花いさきもり  
阿保山 はるの山

万葉 八雲の山よ大和國

阿保山の依る本の花いさきもり  
安太師野

そよ草よ山城國又大和國

人の世多き人いふてわづら野のふれがねはひるの良徑

標野

拾遺愚草 勸字名所よ大和

るる天津の月影とてのまの野乃秋のまの良宅家

飛騨山松

万葉 藤塩草よ大和國

白鳥乃飛騨山松の宿所ぞお懸けり万葉法をま持

万葉 多奈久良能野

或紀伊國とてり神平抄云々

考紀伊國風出紀云々乃とびくとお海とよ

宗祇法師の國とけ藤塩草の尋よ大

和國

あぐら乃池

藤塩草よ大和國

あぐら乃池

中山

元備家集

たさくふぞ思ひや

鳥栖山

藤塩草よ大和國

秋泉寺ア抄よ

絶間池

藤塩草よ大和國

懐中抄

あぐら乃池

藤塩草よ大和國

絶間池

藤塩草よ大和國

絶間池

藤塩草よ大和國

良王 悉くびて持て置るはりのちのねきと突つ池と常陸  
玉舟

の海草よ大和國

赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山 赤層山

魏字名所り不草よ大和國

史本

跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳 跡見乃岳

の海草よ大和國

万葉

射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳 射目とそと松見乃岳

手折若いもそと寧樂人乃ま先

弓削川原

澄月舟橋よ河内國 仙覺抄八雲山抄

万葉

志保の川を乃川糸の理本わら歌が記とあ

見別河

類聚

魏字名所よ大和國

大和島

色一海草よ毛海と鶴乃日本國乃惣衣

ありのぼくとも定る記つ徳少と一和

史本

大雲よ春松ふけそのまき切人記抄一 大和島人常盤井入道

始見崎

八雲山抄も一不草よ大和國

大傳坂上御女跡見田庄と作秋

妹が因とんそめゆたの秋葉子は月夜より

六百番奇合 御市

や海と海や海らの市女とてんの中よはしとていづかき

顔池

藤塩草よよ越お國又大和國

我もいさよりてんを光熱の池よ迷ひひりり也

本執宮

八雲山折よ大和國

此食向本瓶の宮常交と定め海ひあわさる

鴨浦

藤塩草よ大和國或ハ河内國元又回

和泉國元

常里の海草よ大和國或ハ河内國元

雲の和草よ大和國或ハ河内國元

并梳の河内國と云く

我輩心ははる新義のよもてあようていん

多能池

八雲山折藤塩草よ大和國

知りまらていづかきとてあわさるのひり池よ

宇治山

八雲山折仙光折藤塩草の類字長所并

折古新梳よ大和國と云れども故法不

為宇治山折宇治川乃色乃や

は宇治山乃色乃定て子細ゆり

あがくとらんくゆり

持統天皇在野宮の御事の時

宇原山に於て御事なされし時

御路池

長皇子遊狩之時柿本朝臣人麻呂

馬並てゆりしとて就衣帯と持統乃小野

小麻呂といひしを免るべしといふ

同 畧 以後

遠津人より道乃池まじり乃まそも

て色衣とてうづり

和列舊跡幽考

古詠未考

おや乃海

藤原朝よ大和國或ハ越守國まげらとも

海乃乃山

同書よ大和國

綿豆山

同書よ大和國

下捨山

同書よ大和國乃水をめぐりあり

高瀬川

同書よ大和國乃月夜も枕袖のみあり



きし海陽川

八雲山新しんののやまのの大和園  
お名野乃池

八雲山新しんののやまのの大和園  
う紀目の池

八雲山新しんののやまのの大和園  
う紀目の池

八雲山新しんののやまのの大和園  
う紀目の池

八雲山新しんののやまのの大和園  
う紀目の池

八雲山新しんののやまのの大和園

和列舊跡幽考第二卷終

和列旧跡幽考者、予カ旧友  
宗甫翁之所作也。一日翁  
持此書来被示於予。就繙  
閱之。茲和之中古蹟之昧  
探索無遺。古人云、西湖之  
勝可言、不可悉矣。吾土亦  
然乎。今見翁之志、其可謂  
勉也。翁需跋尾於予、不得

固辭スレシ遂書ニシテ數言ヲ以投呈ス李

延寶九年辛酉夏之孟

懶齋龜藏書

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

